

目的

原子力災害時には、県民への情報提供や避難誘導、避難管理等、数多くの災害対応を迅速かつ正確に行う必要がある。これらの業務を遂行するため、被災情報を速やかに取得し、救護活動等を可能とするとともに、避難住民が迂回路情報や避難退域時検査場所に関する情報などを容易に取得できるシステムを開発することにより、より円滑な避難を可能とすることを目的とする。

内容

①住民避難支援・円滑化システムの開発

被災情報を速やかに取得し、救護活動等を可能とするとともに、避難住民が迂回路情報等を容易に取得できるシステムを開発する。

②原子力防災アプリの開発

①の情報を住民に速やかに伝達するアプリを開発する。
平常時：原子力災害に係る知識の普及啓発・一般災害に関する情報等を掲載
緊急時：原子力災害関係情報や避難経路等の情報を掲載

③避難経路の改善

薩摩川内市市比野地区及び野下・藤本地区の避難経路である県道36号線（薩摩川内市藤本地区・鹿児島市大中地区）は、線形不良や狭隘による通行困難な箇所があることから、一部拡幅等による避難経路の改善を行う。

スケジュール

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
① 住民避難支援・円滑化システムの開発 ② 原子力防災アプリの開発	仕様書・プロトタイプ作成	システム・アプリ開発、アップデート、検証	アップデート、検証、普及
③ 避難経路の改善	用地買収、工事	用地買収、工事、検証	工事、検証